

一三 受領一冊三〇〇 丁一四五〇 (〇一〇三十一)

二 兩 〇 〇 〇 〇

「通達指示」大 梅 參 一 冊・五十六頁綴

機密集〇二一〇一五番電

發 參 謀 長

一月附第二命三六號暗流總才八根據地際ニ編入セラレテ營業ノハナリ  
西航路與新擔任機密實行困難ナリト觀ム之ガ爲ニ付研究ヲ得ル

一六九八 用一冊(一九五六年)(二一冊)

海軍省 海軍部 重

保存  
十冊  
四冊

0003

局員

課長

局員

第十信課

至親急展

受領二四三

丁〇六四二

一〇〇八六九

聯合艦隊司令部 東方方面艦隊司令部 大洗第一隊

暗號軍

機密第〇二二四四四番

第八艦隊司令部

第十七艦隊ハ「マスモ」東ノ「タロキナ」攻取ノ爲「ホンミ」千ヨイセル

ヨリ密艦支隊ノ全部ハ「中大隊」シヨートフシト「文」シヨートフシト「タタマ」シヨートフシト「アスビヨリ」艦々中隊

〇〇〇其ノ他ヨリ三箇中隊一機隊個ノ約半数ヲ抽出攻撃兵力約七

箇大隊ヲ艦内カキ集定

三艦隊トシテハ本攻勢ヲ指全面的ニ支援遂行リ第一機隊艦隊兵力ヲ以

テ東ノ「シヨートフシト」艦隊ニ任セ「ホム」ト夫ニ機を懸キ以テ「ホム」

一三三

日一

八

海

軍



セシノ「タイタイ」マワレカ「國境滋補器具トシテ」  
第十七軍ニ渡渡且夫最難最難ヲ助ス。

第  
十  
第

海  
軍

2



四度一六・六度三三〇度一三一三度早轉等語一三三度八・五〇一五〇  
 度一四〇七初等一五〇八一二二六度六・二五〇一七五度一九四二八  
 度一八五九一八六・五〇一三三二一五度  
 五〇〇六二三三三三〇度一分東經一三七度五九分 一六五度  
 一七三度東經二七度二分東經一三七度五一分一九五度  
 六〇〇六三四度東經二三度五七分東經一三七度五〇分一五〇度  
 一七一五東經三一三三二分東經一三七度二分一分一七〇度  
 七〇〇六〇三東經一七度五二分東經一四〇度四分一〇〇度 一六五度  
 東經一五度三三分東經一四二度〇分一三五度  
 八〇〇六〇一東經一三度〇一分東經一四四度五六分一二五度 一六五  
 五東經一一度一七分東經一四七度四分一四〇度  
 九〇〇四度東經八度東經一四九度一五度一六〇度 〇七〇〇  
 東經八度八分東經一四九度二九分〇三分 一五〇〇東經八度六分東經  
 一五一度東經三度五分東經一五三〇南水度一六三〇東經一平均度力一六

第十信

海軍







6

親展

一五四

受譯譯

信始了

〇〇二

二〇一

二四三

〇〇〇

(〇一六七)

人

事

露

發信者

第一通信隊

着信者、人事局

受報者、第八艦隊口

極秘

機密第〇四一八三〇番電

發 一根司令官

昌山(二七八五)其ノ後モ發熱續キ八病入院ノ要アリ

速ニ交代者發令方取計ハレ度

二七〇七 波一〇(五三二五K)八通

海軍

第十號





1100

8

又事

一六

受譯

信始了

—

四三二

一三五

五〇二

(〇二三五〇)

人

事

親長

局員

局員

寺井

寺井

二〇

三勇

三勇

三勇

三勇

● 人 事 局

● 南東方面艦隊口・二六航戦

階級 秘

機密第〇六〇八二五番電

貴機密第〇五一三一六番電關聯

飛行隊長 倉桑(三四五九)ハ体力(舊戦傷ニ依ル)ノ關係上專ラ地上

ニアリテ勤務シ事實上飛行長ト同シ等ナルヲ以テ當分專任ノ飛行長ヲ必

要トセズ。

三九六八

波一D(一八三)D(一八)

海軍

第十信限

九八 受信 一九五三〇

譯了 一三三〇(〇三三六五)

航本 人事

發信者、練習聯合航空總隊

着信者、

- 大井空 上海派遣隊
- 三聯合航空隊
- 九聯合航空隊
- 高雄空 高雄空
- 大井空 青島派遣隊
- 鈴木空 美保空
- 美保空 出水空
- 谷田部空 博多空
- 北空 德島空
- 浦空 東京分遣隊
- 支那方面艦隊附屬航空部隊
- 大井空

受報者、

- 航本 總務部
- 人事局
- 佐鎮
- 佐世保空

機密第〇八一五三二番電

一三期豫備學生練習機教程配分左ノ通定ム

- (1) 陸上機操 艦波海軍航空隊 二七〇名、谷田部海軍航空隊 二七〇名、東京分遣隊 七三名、出水海軍航空隊 二七〇名、第二美空 二四二名、高高空 二六二名、臺中分 一六九名
- (2) 水上機操 博多海軍航空隊 一六〇名、北空 一六〇名

五五七二

呂一B( B ) 横通

海軍

(一)

各種印信及手印

空別 第十信課



(イ) 偵察大井海軍航空隊五八四名、餘鹿海軍航空隊五八三名、徳島海軍航空隊二九一名、青分四三五名、上分二九二名

ニ 佐世保分遣隊開隊ハ四月ニ延期セララルル豫定

第十課

海軍 (二)

10

人事局長

第一課長

局長

局長

工勇

赤坂

千倍課

至急

一〇

受譯  
信始了

一一  
二二  
三四  
四二七〇

〇三八

航  
事本

第二特暗親展

航本第一部

人事局・佐世保人事部

新竹航空隊

機密第一〇一〇〇五番電

機密第一〇一〇〇五番電

發 新竹航空基地指揮官

第一五三海軍航空隊ハ何處ニテ編成サルルヤ。

六七六五

呂二B(一四一一五K)高通

海軍

人事

親展

一二 陸軍第一八四〇 陸軍第一八四二 (〇四七五) 陸

陸軍第一八四二 (〇四七五)

陸軍第一八四二 (〇四七五)

陸軍第一八四二 (〇四七五)

陸軍第一八四二 (〇四七五)

陸軍第一八四二 (〇四七五)

陸軍第一八四二 (〇四七五)

陸軍第一八四二 (〇四七五)

第1信課

015

八六四九

陸軍

海

軍



12

借親

親至  
親展

一二

受領一八〇〇七

丁一八四五

〇〇〇  
四四六  
七七九  
一一八  
一一二

時  
本

第十課

● 聯合艦隊司令部・一基地航空隊司令部

● 大東海軍一部

借親

機密第一二二二〇四番電

三分ノ六三三

● 第六空襲部隊指揮官

本年初頭以來敵大中小型機聯合ヲ以テスル且大機空襲ハ益々激化シ敵ハ各方面に遠征兵力ヲ一舉ニ投擲セシメントスル作戦ヲ採リツツアリ我ガ戦闘機隊士氣奮旺盛ニシテ襲兵克ク越日恐天候ヲ冒シ之ヲ追撃大ナル戦果ヲ獲ゲツツアルモ毎回襲リツツアル僅少ノ被害ハ累積シ以テ我ガ實働兵力ヲ減減シツツアリ即チ現狀ヲ以テ推移セバ我ガ案

八五五・八五五・八五五

五三三・九八九〇〇一八通敵

海軍

兵一箇ヲ以テスル戰闘機數ハ運送大率空襲ヲ敢行シツツアル敵ニ對シ第  
 一隊後進上ニ在リテ燃料燃彈補給ノ間一舉ニ紛碎セラレルノ危険アルノ  
 ミナラズ或風度ニ損耗セラレタル兵力ハ其ノ實力ヲ急激ニ弱体化スルハ  
 戰例ニ依リ明ナリ零戰隊現實動兵力六〇ニシテ之ヲ以テシテハ進攻作戰  
 困難ナルノミナラズ當方面進襲戰ニ於テモ逐次不利ナル戰闘實態スルノ  
 已ムナキニ至レベシ即チ今直ニ零戰五〇機以上ノ實動兵力ノ強化ヲ要ス  
 トシ併セテ三〇一陸五〇三陸兵力ノ急進ナル進出ハ一部ニテモ可一促進  
 ノ要アリト認ムハ一月下旬補充隊定ノ若年搭乗員ハ二月中旬以降ニアラ  
 ザレバ實動兵力トナリ得ズ

第十信課

海軍





14

第一課長 司馬

行司 昭昭 三新 志雄 第十信 課

一 一三 受備三九二〇 附丁二二三〇 (〇五二八〇) 一人令

受備者、八 海 局

受備者、人 事 局

陸軍省

機密第一二二七四六番電

發 第六師隊 海軍

受備者第一一一八一五番電返

第六師隊附屬偵察機隊ハナシ兵方ハ左ノ面改ノルコトニ意見上申

中

指揮官一名 搭乗員整備員各三組 (内一組ハ豫備) 及無事整備員兵二五名

名。

八七七三 呂一 (五二二五) 四編 海軍

11420

15

緊急

局長

課長

局長

福蛇

王勇

陸軍

陸軍

第十課

一四三 受信 一八四五〇

譯了 一二一〇〇(〇五五九二)

一人 令專

着信者 人事局

受報者 大海參一部・八艦隊口・南東方面艦隊口

暗號 極秘

機密第一三一二〇一番電

發 一特根司令官

當隊司令部定員(現員)四九(二九七六名外ニ舊第八特別陸戰隊ヨリノ轉入豫定者一四〇〇計四三七六名)ニ對シ募僚定員(現員)九名(五名)ノ現狀ニシテ連日ノ作戰ノ外日常ノ事務輻輳募僚ノ不足ヲ痛感ス取敢テ富山(二七八五)ノ後任速カニ發令方取計ヘレ度

(東通註 本電再送ノ爲遲延)

九四一九 波一。(九八九〇)八通放

海軍





親展表

局長 課長

局長 課長

局長 課長

局長 課長

局長 課長

局長 課長

受信一三三八  
詳始一四二五八

詳了二四四五  
(〇五四三五)

作保

特別緊急

吳通。製警部隊  
國洋丸。聯合艦隊口

暗號

機密第一四一二二〇番電

發 膠 艦 隊 艦 長

豫定地點ニ至ルモ國洋丸ニ會合セズ我艦沈没地點附近ニテ敵潛艇中十餘

日 一三二〇  
九九〇九

登三(八九九五)四通放

人事

局長 課長

局長

課長

課長

課長

第十位

親展

一一四

贈送

了給

二二二  
三三三  
三二五  
五〇六

（〇五五八三）

親展

本署

● 南東方面航空隊第一支隊

● 航空本務部 二空隊横須賀補給工場 二十八日發下

呼號軍極機

後書第一四一四五〇番

當殿天山三回機（内一二機ハ現地ニテ補充ノ豫定）ハ本月下旬ヨリ南  
ヲ約三ヶ月ノ豫定ヲ以テ「トヲツタ」ニ進出ノ旨ナルモ航空一隊作動  
始メテ行動ニ支障アリ一五〇〇延「トヲツタ」補給工場宛至急手配  
梅座

一〇一八九

日（西九月五號）一〇

海

軍

0023

18









現 艦ハ國洋丸製機トモニ向ハシム早波今夜引續此ノ附近敵潜水艦觸  
キ 敵艦ヲ航行ス

五 春 兩ハ其ノ附近敵潜水艦觸機後國洋丸ニ合同サレ度。

第十卷

海軍

2

21

緊急

儀

一七

訓練受

了始儀

一一

七七六

三〇三

〇〇三

(〇六八〇九)

作

五加

赤坂



南西方面部隊各戸▽・第三艦隊航空部隊

●

●

聯合艦隊各戸▽▽

陸軍部

機務部一七一四三番電

陸軍部機務部一六一二二番電

陸軍部機務部一六一二二番電

陸軍部機務部一六一二二番電

海軍

第十信



22

人事

親展

議長

局員

一 一八

受譯

信始了

〇〇〇

七五一

二〇〇

〇〇六

(〇七〇一二)

官房・人事

第十位課

大

二十四航戦

佐鎮・十二航空艦隊口

五三一 空

機密第一七一九一六番電

暗號軍

二等整備兵曹 田中四郎 (佐志整二二五四) 一月五日「トラツク」基地ニ於テ天山一型試飛行中不時着戦病死 (頭蓋骨複雑骨折腦損傷) ス同日附特殊進級具申ス。

一三六九〇

呂一B

(八九九五E)

四通放

海

一軍

# 親至急展

一 一八

譯譯受

了始備

二〇七  
三四三  
〇九二

((  
〇〇  
七七  
五五  
五五  
二三  
)

合人兵航  
副導備本

官軍一  
房需令

第電  
十信  
課際

- 大海參一部・聯合艦隊口
- 人事局・航本總務部

## 暗號軍務

機密第一八〇八一五番電 二分ノ二

發 十一 A P 參謀長

マ一月十五日午後ニ於ケル當隊實動兵力左ノ通

(完備機數總機數實動組數總組數括弧内B組以上ノ實動組數) 實  
動組數ハC組以上ノ健康者數ナリ

- 二〇一空・一・二・九・一一・(P S ニテ再建中)
- 二〇四空・五五・九四・四五・六一

一三〇七四・一三〇七五 飛一B(五三二五四)八通

電

第十卷

二五三空・三七・五五・二九・五一  
 三F 戦闘機隊一二・一二・一二・一四  
 五八二艦爆二・三・二〇・二八（一五）  
 五〇一空四・八・一三・一六（一三）  
 五五二空八・九・一〇・三五（一〇）・五八  
 五八二空艦攻六・九・一一・一一・（七）  
 三F 艦攻隊八・一一・一二・一四（八）  
 七五一空・三二・四六・三九・四五・（一四）（但シ一五組在R  
 中）  
 二五一空五・八・五（一）（五）  
 一五一空四・四・六・七・（百式偵機材〇搭乗員一）  
 三F 偵察機隊〇・二・一・三  
 輸送機隊九・一四・一〇・一六・  
 三、一月一日ヨリ十五日迄ノ搭乗員消耗數及消耗機數（括弧内）

海軍



戰闘機二一（且且邀撃戦）（二九）

九九艦爆二（夜間基地攻撃）（六）

彗星二（索敵攻撃）（二）

艦攻一（夜間基地攻撃）（一）

陸攻三（哨戒及夜間基地攻撃）（四）

艦偵二（「夕口キナ」方面偵察）（六）

夜戦一（墜落）（一）

百式司偵（一）。

第十信隊

海軍

24



一一八 編纂 二九三三 丁三三三三 (〇三三三三) 作 櫻

大海第一巻

海上圖書館刊・一海上圖書館

昭和第一八一九五九寄贈

海軍省図書

大正海軍第一七一九〇八番圖書

昭和十四年一月二十五日 海軍省図書

海軍省図書第一七一九〇八番圖書

昭和十四年一月二十五日

第十信

海軍

25

第一局長

局長

王勇

田

第二局長

第十部

一九八

受信二七二〇六  
譯始〇七二〇六

譯了〇八〇〇

〇七四三一

人航  
育本

着信者

一四聯合航空隊

發信者、練習聯合航空隊

受報者

人事司・航本總務部・高雄航空隊

機密第一八一八四五番電

第十四聯合航空隊機密第一七二〇〇四番電ニ依ル機備學生教育ノ件認  
許セラル本學生ハ適宜二月一日以前練習機教育教ヲ開始シ練習差支  
無之。

一三二六七

呂一〇

B

一横通

海

電



26

榮西特種親展

課長



一 一八

受信 〇九〇〇三  
開始 一〇〇〇〇

譯了 一〇三五 (〇七四九二)

人事



人事局



精銳軍種

機密第一九〇七三一番電

發 GF 參謀長

玄洋丸指揮官石原大佐高血壓症ニテ前進不適ニ付交代方取計ハレ度。



第十信 課長

一三五〇七 呂四B) 一七六三〇K) 四通 軍



98.00

28

人  
39

作

緊急

新展扱

一七六〇〇

一七三〇

一〇七六六四

作

五親△・二本親△

● 艦長・海上要務課司令部・發 艦

暗號軍極秘

機密第一九一四〇七番電

○ 電令作第六回號

一 第二十四驅逐隊（海風涼風）第十七驅逐隊（海風）ハ先任司令官指

揮被ニ出港第二水雷隊隊司令官ノ指揮ヲ受ケ艦隊ノ警戒ニ任ズベ

シ

ニ明石特務艦長ハ救難作業隊ヲ編成海風ニ乗艦セシムベシ。

一三七二七 口二五（八九九五）圖放

海軍

第十位



29

人

親展教

一九

受領二〇〇四〇

了二一〇〇一〇七七二二

作

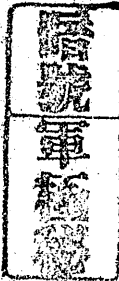
第八東京丸

五

要

A

海上糧食補司命部・聯合糧食口・國總口・總代



海軍第一九一八四八番電

五特機電令第十三號

一、海軍本日一〇時三北緯十二度五十二分東經一四六度二六分ヨリ

力國總代初着發後P日ニ向ケ航行中

二、第八東京丸・五十餘出港次第哨艦ヲ檢シ速ニ警備ニ合同ノ上P日迄

警備ニ協力スベシ。

一三八七三 口一 (八九九五) 國海

海軍

第十信

30

作

注意

二〇

（〇八二六七）

着信者、海上護衛口

作兵運  
備輸  
・施本  
・航本  
・軍需

着信者、

南西方面艦隊口、第一南遣艦隊口、横領

受報者、

軍令部一部、軍令部二部、軍務局、航本總務部  
兵備局、施設本部、軍需局、運輸本部  
佐官、吳鎮、舞鶴、各警備府、聯合艦隊口、十一根父根  
第一海上護衛隊口、第二海上護衛隊口、父空、九〇一空、小森  
第三南遣艦隊口

機密第二〇二〇二一番電

二月中旬頃第九〇一海軍航空隊兵力ノ一部(目下館山ニ於テ整備中ノ陸  
攻各六機ヲ基幹トスル程度)ヲ夫々西貢及硫黃島ニ進出對潛作戰ニ從  
事セシメラル豫定ニ付準備ニ關シ可然取計ヲ得度  
追而基地狀況調査並ニ打合ノ爲同隊幹部適宜ヲ不日現地ニ派遣セラル  
可ニ付便宜供與方取計ヲ得度。

二七二〇 呂二日

31

人...局長

局長

福地

三勇

...

...

第十...

第三特種親展

祝展

一二〇 受傳一四二五四 轉丁一四一〇 (〇八〇二七) 特 展

● 南東方面艦隊口

● 軍 務 司・聯合艦隊口

機密第二〇一〇〇一香電

貴機密第一八〇九三三番電開聯

當艦隊參謀長ハ指揮官兼務ノ關係上出張ノ件ハ差控後ニ付御含々置キアリ度。

一四三四三 民三B(一八三一〇〇)八通 海軍



32

# 海軍



局長

課長

局員

海軍省

海軍省

海軍省

第十部

一 二 一

海軍省

丁給付

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

(〇八三三三)

作

保

小笠原島

海上護衛隊口・瑞鳳・五十鈴・龍空・父空・横濱海防

機密 二一〇〇一六番

艦代 瑞鳳 雲龍及五十鈴ノ行動ハ西艦ノ被害ニ依リ相當遲延スル  
 モノト推セラルル處(善方状況不明) 瑞鳳 五十鈴及護衛艦隊遂に  
 ハ予報通り行動ヲ履行シアルモノトシテ二十一日ノ警戒ヲ實施スルコ  
 トト致度 右部隊ノ行動状況判明セバ知ラサレ度。

一四九三三

日二日(日)

軍

33

人子

# 作

親展

三 二〇一五

丁 二二一〇

〇〇八七三〇

作

共

符



- 大海 参 一 部・聯合艦隊
- 六艦隊 中・八艦隊

海軍

機密 第二一 一一三〇 番 電 二 分 ノ 二

海軍方面部隊  
機密 参謀長

一、左配理ニ依リ艦隊ニ大型潜水艦少クトモ二隻一内一隻ハ飛行機格

取機體ノ輸入方取計ハレ度

(1) D B 西區及アフリカ東岸方面ノ偵察ハ潜水艦飛行機ニ俟ツ外

ナキ所現在當艦隊入中ノ飛行機搭載機ハイ三七及イ八ノ二隻ニ

沖ノ之ニ相當スルイ八搭載機ハ能力不充分ナリ

(2) 敵側ノ地中海出撃以後 D J 經由 D B 方面向ノ輸送量急増セル

SECRET

海軍

第十卷

モノノ如シ

イ一〇（四隻駆沈）

イ二七（五隻駆沈）

イ二六（三隻駆沈）ノ結果ニ鑑ミ敵ノ警戒比較的手薄現在行動

力大ナル潜水艦ヲ以テD E A 及 D H B 方面ニ於テ離交通線ヲ破

壞スルヲ有利トス

（イ）南西信風季節間印度洋ニ於テハ小型潜水艦ノ行動困難ナルト戦勢

ノ推移ニ依リ逐次該北方面ニ潜水艦ノ増勢ヲ豫期セラルル慮主

トシテ小型潜水艦ヲ之ニ充當スルヲ有利トスルノ關係上印度洋

ニ於ケル其ノ快子機ヲ爲ニ大規模潜水艦ヲ必要トス

（二）前記（四）項ノ交通破壊戦ノ爲ニ且該潜水艦成ルベク多数至急編入

方取計ハレ度。

電信課



34

機密

一 二二一 受譯 信始了 一九五三 〇八五八二 人事

- 東京海軍通信隊
- 一南遣艦隊

機密

機密第二一一四一五番電

發 第九特別根據地隊參謀

一月一日附發令 保科(コ五〇三)着任セシモ同人ハ年齡六四歳ニシ  
 テ氣力壯ナリト雖モ体力之ニ伴ハズ最前線部隊中堅幹部トシテハ不適  
 ナリト認メラルルヲ以テ今後ノ配員ニ關シ考慮方相煩度・

電信課 註 橫須賀人事課 へ 乾電 済

一五四四五

呂一B(四三九七五KG)十通

海軍

第十信課

35

第一急電

二二  
受信二二〇二五〇

譯了二二二二五〇八五九五一人

事

● 吳 人 事 部

●

陸

●

奧

● 人 事 局・第二十五根據地隊

暗號軍機

機密第二二一五二六番電

中尉福田林之助（召）腎臟結石ニテ入室戰地勤務不適ト認メラルルニ  
付至急交代方取計ハレ度。

一五五〇四 波一B（五九〇五K）海一通軍

第十信課

36

作

二三

受

了始信

一一

六六四

三〇二

〇〇〇

(〇九三九二)

作・航本

發信者

受信者、大人身海軍本部・第四根、第五根、第一、第二、第三、第四各航戰、聯合艦隊

通報者、軍務局・第二五、第二六各航戰

機密第二三〇九五二番電 二分ノ二三

發 第十一航空艦隊參謀長

一、第二航空艦隊ノ進出ヲ契機トシ左ニ依リ當隊ノ一部ニ對シ搭乗員ノ練成及航空隊ノ再建ヲ實施セシメラルルニ付然ルベク協力相成度  
(イ)陸攻隊ハP S T 他ノ機種ハP E 配備ス  
(ロ)第二六航空艦隊司令部ヲP E 團ヲ專ラ同方面ノ訓練幹部トス

一六七三三・一六七二四

呂三三(九八九〇三)八通成

海軍

第十信課



37



東京通

具

銀

一三三 受 備 一四〇〇

(九九三三三)

作 東 部 寫

電信課 第十課

東京通 東京通 東京通 東京通 東京通

獨立混成第五聯隊長

短 東部軍司令部

一月十六日附電報セル第二次敵艦高麗海運船被撃ニ乗レル獨立第五  
 聯隊ノ人員一五〇名中敵魚雷ノ爲一月十六日八九名戦死（内十二名  
 死體收容）九名重傷（佐伯防衛隊ニ後送サル）他ハ初月ニ收容セラ  
 レ横須賀ニ回航セラレタル筈ナハ該月ニ乗組アリ申隊長ヨリ一月  
 十九日附書留連送ニテ送付シ来タリシ報告書ニヨリ書留書ハ該月生  
 存將校ニ托セルモノノ如シ目下詳細調査中ニテ後報ス。

一六三三四

海 軍

38

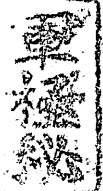
親展



一 二三 受領 一四一〇 (〇九三四四) 作・京海軍

受領書、東海軍守 贈

受領書、東海軍守 贈



機務部二三一三三七番位

機務部軍用合官

機務部軍用合官

一月十六日ノ海上遊覧ニ依リ發着ナル部下多數共ニ遊覧ニ参加

候キテ報告ス

機務部軍用合官

海軍

海軍

第十信 親展





尙懸活羅ハ「」日「」陸海内陸軍海軍ノ護衛ニ協力鑿投スルコトニ取  
附ヒ「」海軍ノ海軍會ナリ。

「」海軍護衛 本文中「」待子會ヒ「」トアルハ「」待ツコトナク「」トモ  
無キナリ

海軍

第十信課

海

軍

40

親展

一四三

了結備

〇〇一

八八

五〇三

〇〇三

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇

作

● 華英團司令部 (三十二線)

● 軍務局、大海參一部、四南連隊司令部

陸軍部

機密第 二八一五三二番 二分ノ二

發 南西方面陸軍參謀長

廣

司令部ハ營區所管地域ノ擴大ナルニ鑑ミ飛行場所在地ヲB、D、F  
 H、L、Aノ三箇所(職團總隊所ハ別ニ敷置所)ニ選定設營又ハ計畫  
 中ニシテ欲流ニ應ジ陸地ニ司令部所在地ヲ移轉セラルル選定L、Q、A  
 司令部所在地ノ一ニ選定セル理由左ノ如クニシテ陸海軍協同作戦ノ一  
 層ノ緊密化ヲ期ス爲テ司令部モL、Q、Aニ設營セラルルヲ希望スルトコ  
 口研察方御願致度

一九三三・一七三三

第一日(西三九五五・一八九〇〇)十海

軍

第十卷

一、地理的共ニ歐北方面ニ對シ最近國情ニアリ

二、港灣ノ狀況防備及泊地ノ論ニ於テ敷道ニシテ輸項ト關係被北方面ニ於テ交通ノ要衝アリ

三、航空路線等ノ建設ニ趣ス

四、敵大型機ノ攻撃國內ニアルモ攻撃國外ニ趣スルコトハ敵日ニ九ノ

出現ヲ豫期セラルル現状ニ於テハ困難ナリ

五、敵營壘材ノ不足等ニ依リ陸路ヲ通過設備ヲ假地館シ海軍基地施設ハ

漸次改善スルコトトセバ左狀況ノ困難ヲ來スベシ

第十信

海軍



4

人 37

二八 受 始 一三四四 丁 二五 一〇二五 (二一九五〇) 作

七 概 A

● 九 隊 隊 口  
● 大 隊 隊 一 隊 ・ 南 東 方 面 機 隊 口 ・ 聯 合 機 隊 口

機 隊 第 二 八 〇 九 五 〇 番 隊

一月二十八日現在ニ於ケル當隊現狀左ノ如  
クマダン現有兵力司令部一七、八二警司令部以下三、八五警約五〇(舊  
佐世保留守府第五特別機隊)計約七〇  
三八五警八二警及司令部員ノ一總計約二五〇(舊八二警司令部機隊大佐  
指揮)ハ五一師團長指揮下ニ一月二十四日ガリ附近最マダンニ向ケ  
轉進中三月下旬其ノ約半數マダン西端可能ト觀ム但シ總員餘邊ヲ要  
スル見込

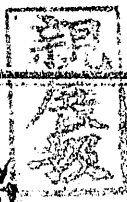
二〇八八五 兵一〇(五三二五部)八 海 軍 1

第十信 譯録



42

131



局長

一三一

受了始

一〇二六  
四〇〇

(一二九一二)

非

課長

局員

局長

局長

聯合艦隊司令部・内南洋方面部隊各ノ

機密第三一〇六三〇番電

其ノ後ノ情況ヲ綜合スルニ未ダ攻勢部隊ハ上陸シ居ラス昨日ニ別機  
 中夜間臺灣ニ至リ砲撃銃撃ヲ斷斷ナク執拗ニ受ク在<sup>ル</sup>飛行機  
 魚雷艇彈燃料等丸全部消耗シ既ノ上ハ全機結束不眠不休食糧モナク  
 敵ノ攻勢ニ備ヘツツ有リ全員士氣極メテ旺盛ナリ方法アテバ搭乗員  
 ノミ<sup>ド</sup>ニ別機ダシ<sup>テ</sup>再檢討セシムルヲ可ト認ム。

二二六六八

登五(八九九五) 隔通

軍

第十課